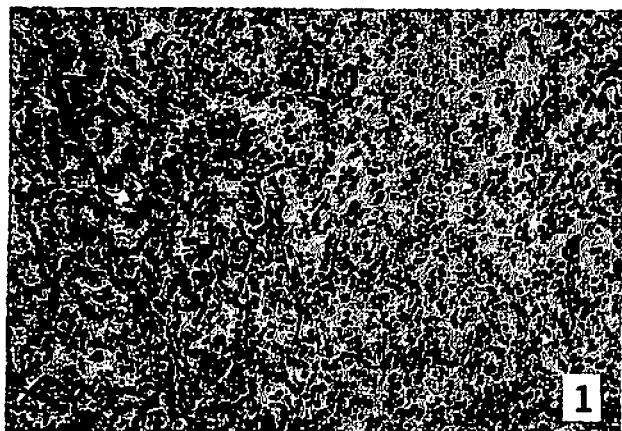


犬卵巣の嚢胞腺癌

家畜衛生試験場北陸支場第一研究室
徳島中央家畜保健衛生所出題

第20回獣医病理学研修会標本No.333



8歳のマルチーズ種の雌犬である。約1ヶ月前から食欲が減退し、削瘦してきたので、〇家畜病院で診察を受けたところ、腹腔内に波動感を有する異物が触知され、可視粘膜の貧血が認められた。Ht値は8%、白血球数は $2900/\text{mm}^3$ であった。3日後に死亡し、右側の卵巣と子宮が検査のため持参された。右側の卵巣は $7 \times 5 \times 3$ cmの大きさで、厚い結合織被膜に包まれ、全体が黒色調を帯び、所々に白色の領域がみられた。断面では、白色髓様にみえる領域、桃色髓様にみえる領域および暗赤色の領域が斑状に入り混ってみえた。左側の卵巣は肉眼的に異常なく、子宮粘膜には大豆大の嚢胞が散見された。その他の詳細は不明である。

右側卵巣から得られた3個の組織標本には卵巣の固有構造はみられず、腫瘍性の細胞増殖が広く認められた。肉眼的に暗赤色にみえた領域では腫瘍組織は壊死に陥り、出血が顕著だった。腫瘍細胞は貧弱な発育を示す間質結合織に区画されて一定の配列を示さず小塊状に増殖するが(写真1の中央、HE染色、 $\times 100$)、部位によっては管状ないし索状の配列を示したり(写真1の左)、あるいは嚢胞壁から乳頭状に増殖する像(写真2、HE染色、 \times

100)もみられた。核分割像は乏しい。鍍銀標本では管状に配列する腫瘍細胞の一部が基底膜をこえて小塊状に増殖する部も散見された。腫瘍細胞の形態は小塊状ないし索状に増殖する部では立方ないし多角形であるが、管状に増殖する部では円柱状を示し、細胞の境界は不明瞭であった。細胞の核は円形ないし類円形で1個の核小体と微細なクロマチン顆粒をいれ、細胞質はエオジンに好染して明らかに認められ、PAS染色では陰性を示した。このような腫瘍性細胞増殖巣に連続して、エオジンに淡染する豊富な細胞質をもつ大型細胞が互いに遊離して増殖する部もみられた。子宮では、子宮腺が嚢状に拡張していた。

本例は組織的に卵巣の嚢胞腺癌と診断され、また原発組織として卵巣が強く疑われる。卵巣原発の嚢胞腺癌は皮質表面の体腔上皮や稀に卵巣網の上皮に由来するといわれているが、本例についてその点は明らかでない。子宮粘膜の嚢胞形成については卵巣腫瘍との関連が考えられるが、貧血と白血球減少については卵巣腫瘍だけに原因するものか否か明らかでない。